

# ツール・ド・おきなわ 2019

沖縄県医師会災害医療委員会委員長  
北部地区医師会理事 出口 宝



国内最大級の自転車ロードレースである第31回ツール・ド・おきなわ（以下、ツールド）が11月9日（土）10日（日）に開催されました。全参加者は4,519人で、10日に本島北部の公道を交通規制して行われたレースには、16のカテゴリーに2,998人が出走しました（巻頭写真, Fig.1）。市民210kmはホビーレーサーの甲子園と呼ばれ、全国から強豪が参加するなど大会は盛り上がりを見せていました。北部地区医師会が県内各医療機関や関係者の協力を頂きながら救護体制に取り組んで3回目のツールドとなりました。毎回の反省を活かして、その救護体制も進化してきました。特に今回からは現場活動の安全確保強化のためマニュアルを追加、ドクターカーの増加を行いました（Fig.2,3）。また、GPSを用いた救護車両の位置情報のモニタリングシステムを今回からIP無線一体型の新機種に変更して、昨年よりも効率的な運用を行いました（Fig.4）。



Fig.1 ツール・ド・おきなわ 2019 コース



Fig.2 ドクターカーと救護車

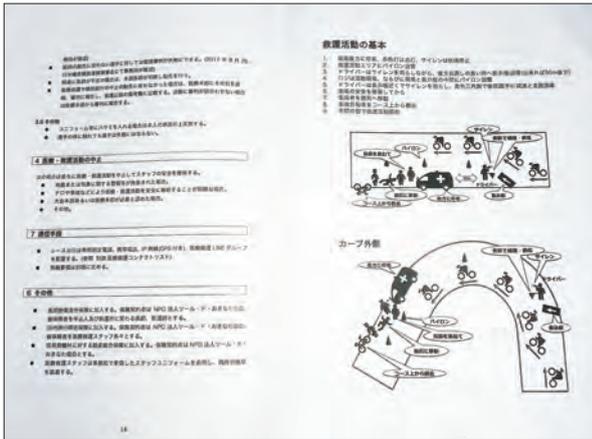


Fig.3 41 ページに及ぶ医療救護マニュアル  
今回から現場活動マニュアルを追加

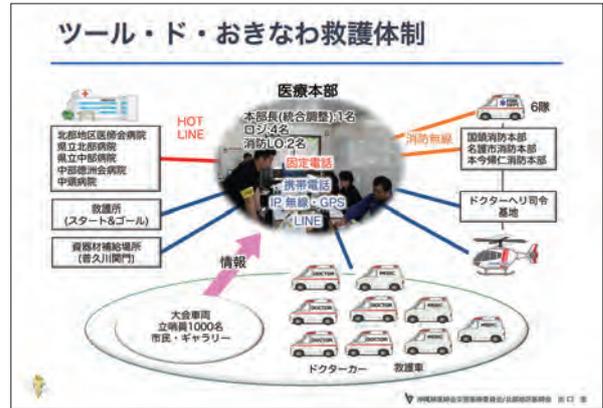


Fig.5 体制図



Fig.4 GPSによる救護車両の位置確認モニター

**通信体制**

医療本部関係	固定電話	携帯電話	伊勢丹	GPS	LINE
大島本部	■■■■		●		
豊田本部	■■■■		●		
医療本部			●	○	○
救護所		■■■■		○	●
救護車				○	○
救護車1		■■■■		○	○
救護車2		■■■■		○	○
救護車3		■■■■		○	○
救護車4		■■■■		○	○
救護車5		■■■■		○	○
救護車6		■■■■		○	○
救護車7		■■■■		○	○
救護車8		■■■■		○	○
救護車9		■■■■		○	○
救護車10		■■■■		○	○
救護車11		■■■■		○	○
救護車12		■■■■		○	○
救護車13		■■■■		○	○
救護車14		■■■■		○	○
救護車15		■■■■		○	○
救護車16		■■■■		○	○
救護車17		■■■■		○	○
救護車18		■■■■		○	○
救護車19		■■■■		○	○
救護車20		■■■■		○	○

Fig.6 コンタクトリスト

1. 事前準備と体制

今回も重症外傷、頭部外傷、同時多数傷病者の発生を想定して、受入れ5病院、北部圏域3消防本部、ドクターヘリと事前調整を行いました。事前準備はCSCATTT<sup>1)</sup>に準じて進めました。マネージメントであるCSCAは、全ての活動は本部で統合調整することとして(C)、救護所の診療所登録、医師賠償保険とスタッフの国内旅行傷害保険の加入(S)、救護活動マニュアルの策定(S)、スタッフのヘルメット装着(S)、通信手段の構築とコンタクトリスト作成(C)、想定される傷病に対する医療資機材の準備(A)を行いました。サポートにあたるTTTは、ドクターカーと救護車と救護所によるトリアージと初期治療(T,T)、本部での病院調整と救護車両と消防とドクターヘリとの搬送調整(T)を行うこととしました(Fig.5,6)。

2. レース当日

当日は、携行品を車両へ積み込み、5時45分から医療救護スタッフ45名全員でブリーフィングを行いました(Fig.7)。通信機器の確認、諸注意、朝食配布のちに各車両に待機、6時45分からチャンピオンレースがスタート、続いて各カテゴリーのレースが次々とスタートしました。医療本部には、市民レースが開始後1時間も経たない7時50分から落車による傷病者の救護要請が次々と入りました。その件数は、集団落車もあり9時までに11件に登りました。その後も救護要請は続き、本部では5台のドクターカーと4台の救護車の動きを確認しながら活動調整をしていきました(Fig.8)。さらに、ゴール時間になると落車後もレース復帰した選手がゴール後に次々と救護所を受診しました(Fig.9)。消防本部には救急車による搬送2件、ドクターヘリの地上誘導2件に出動して頂きました。各現場での対応も迅速かつ適切に行われ、落車による外

傷で緊張性気胸を発症した症例もドクターカーにてトロッカーカテーテル挿入による緊急脱気が行われた後にドクターヘリにて搬送となりました (Fig.10)。全てのカテゴリーのレース終了後には全ての対応と搬送が終了していました。



Fig.7 車輻ごとに準備された携行品



Fig.8 医療本部、正面に車輻位置モニター、右壁面にクロノロジーと傷病者リスト



Fig.9 救護所



Fig.10 ドクターカーによる処置 (普久川ダム)

### 3. 活動集計

全傷病者は109名、救護所対応65名、車輻対応28名、病院搬送19名、ウォークイン受診が17名でした (一部重複例あり)。搬送手段は救護車輻17件、消防救急隊2件、ドクターヘリ2件で入院は4名となりました。傷病内訳はほとんどが外傷でした (Fig.11)。

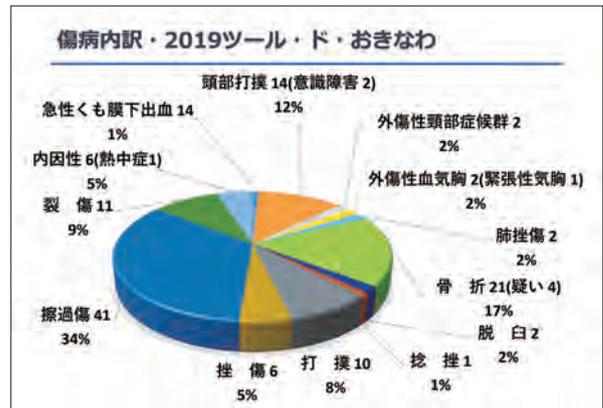


Fig.11 傷病者内訳

### 4. 所感

どのイベントでも救護は舞台裏で大会を支える重要な役割です。一度に同じ場所に多くの人が集まると、ある一定の確率で傷病者は発生します。そこで、マスギャザリングメディスン<sup>2)</sup>が必要となります。この構造は災害医療と類似します。災害医療と大きく異なるのは、事前に発生する時が判明しており、内容が想定でき、それに対する準備ができる点です (Fig.12)。ツールドでは毎回約3,000名の選手が参加し、これまでの経験からは傷病者が約100名、その内病院搬送が約20名、入院が5名前後、殆どが外傷です。このように自転車ロードレース

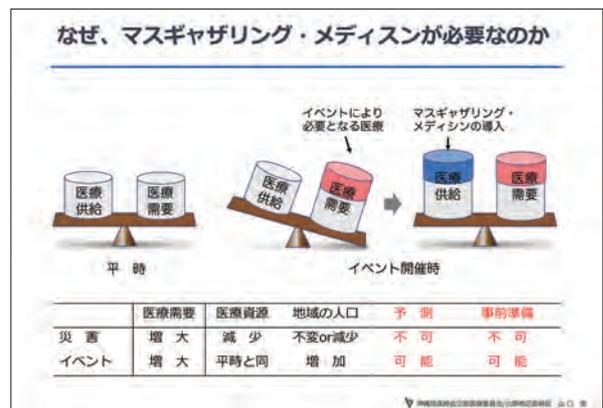


Fig.12 Mass gathering medicine と災害医療

における傷病者の発生リスクは高く、重症例も稀ではありません。最近では国内で5月に宮古島、海外で8月にポローニュでレース中に死亡事故が発生しています。そのため、安全なレース運営は当然の事ながら、事故発生時における被害を最小限にするためには救護体制が重要となります。しかし、模範となるような救護体制やマニュアルがないのが現状です。そこで、ツールドでは傷病者に対する迅速で効率的な救護と地域の救急医療への負担を最小限にすることを目的として、災害医療のノウハウを用いた統合調整と専門性の高い現場活動と関係機関との連携に取り組んできました。大会事務局の理解もあり、今回からドクターカーと救命士の増員を行い傷病者対応力が強化でき、車両モニターシステムの変更を行い各チーム（車両）の運用が前回よりも効果的に行うことができました。毎回多くの反省がありますが、回を重ねるたびに改善されて進化しています。

このツールドの救護体制はサイクルイベント界でも注目されるようになりました。今回はサイクリススポーツの総合ポータルサイトであるCyclist (<https://cyclist.sanspo.com>) から密着取材を受けました。また、第25回日本災害医療学会で報告することになっています。

最近、マスギャザリングはマスコミでも使われる用語になり、一般にも認知されてきまし

た。イベント等で発生する医療ニーズは地域医療へも影響します。マスギャザリングメディスンは災害医療の一分野ですが、地域医療への影響は大きく、地区医師会が関係機関と協力して取り組むことは重要ではないでしょうか。

今回も傷病者受入れ、スタッフ派遣、ドクターカー、救急車両協力などに、浦添総合病院、ハートライフ病院、日赤沖縄支部、県立北部病院、北部地区医師会病院、県立中部病院、中頭病院、中部徳洲会病院、北部保健所、名護市消防本部、本部今帰仁消防本部、国頭消防本部、ドクターヘリ、県内看護師と救命士、ドライバー、その他関係者の皆様のご協力があり円滑に救護活動を行うことができました。大規模イベントの救護には多くの関係機関のご協力と連携が不可欠です。今後も皆様のご指導と協力を頂き、選手、大会、地域にとって最良の救護体制を構築していきたいと思ひます。

- 1) CSCATTT：英国MIMMSにおける、多数傷病者発生事故に最善の対応をするための戦術的アプローチで、Command&Control（指揮、調整）、Safety（安全）、Communication（情報伝達）、Assessment（評価）、Triage（トリアージ）、Treatment（治療）、Transport（搬送）の頭文字を表す。
- 2) マスギャザリングメディスン：マスギャザリングとは、一定期間、限定された地域において、同一目的で集合した多人数の集団のことで、そこで発生する医療ニーズのこと。



Fig.13 ツール・ド・おきなわ 2019 医療救護スタッフ

# 令和元年度永年勤続医療従事者表彰式 217名が表彰される



理事 城間 寛



去る11月27日（水）ダブルツリー by ヒルトン那覇首里城に於いて、令和元年度永年勤続医療従事者表彰式が行われた。

同表彰式は会員が開設する医療機関及び医師会に20年勤務する医療従事者に対して行うもので、当日は長嶺信夫沖縄県医師会代議員会議長、来賓に砂川靖沖縄県保健医療部長がご臨席の下、64施設から217名の方々が表彰された。



始めに、安里哲好沖縄県医師会長から受賞者へ概ね以下のとおり激励の挨拶があった。

本日は、20年勤続された方々を表彰する場となっておりますが、その道のりは大変困難なことがあったのではな

いかと思います。本人の健康保持はもちろんのこと、ご家族の理解、働く職場の上司や同僚等、周りの皆様の協力に支えられ、長年頑張ってきたものと思います。これまで医療や福祉に対し、献身的に活動されたことに深く敬意を表し、改めて感謝申し上げます。

さて、現在わが国では、団塊の世代が75歳以上となる2025年に向け、医療界においてもその医療需要に対応するべく、円滑かつ効果的な医療提供体制の整備が求められております。沖縄県においては今年に入り、一部の地域で救急搬送の受け入れに制限をかける等、医療機能の分化・連携の推進や回復期機能を有する病床の整備が喫緊の課題であると感じております。

また沖縄県では、働きざかり世代の健康悪化、早世が極めて深刻な課題となっております。本会においては「65歳未満健康・死亡率改善プロジェクト」を立ち上げ、「高血圧対策」に

重きを置いた取組みを行っているところです。我々医療関係職種が一丸となり、県民の健康づくりに取り組むことは、非常に重要なことであると考えております。

幸いにして、今回表彰を受けられる皆様は、非常に経験豊かな方ばかりでございます。永年培った経験や知識、技術を活かし、地域に根差す医療職者として、良質な医療の提供に努め、本県の保健医療福祉の向上にご尽力を賜りたいと思います。」

続いて、安里会長より各施設の代表者へ表彰状の授与が行われた。



砂川沖繩県保健医療部長より、概ね以下のとおり来賓の挨拶があった。

ただいま永年勤続の表彰を受けられました皆様、誠におめでとうございます。

皆様は、医療の現場において、長きにわたり職務に精励してこられました。

その御苦労に対し、深く敬意を表します。

今後とも県民の健康増進のため、職場において中心的な役割を担い、本県の医療提供体制の充実に取り組んでいただけるものと期待しております。

さて、高齢化のさらなる進展により、医療を取り巻く状況は大きく変化しております。

そのような中、県では広範かつ継続的な医療の提供が必要な5疾病、5事業、在宅医療の充実及び医療従事者の養成・確保などに関する施策を定めた、第7次沖繩県医療計画を平成三十年3月に策定し、全県的な医療提供体制の確保に取り組んでおります。

また、今年度は、現行の医療計画の一部として、新たに医師確保計画及び外来医療計画を策定し、医師の地域偏在及び診療科偏在の是正、必要とされる外来医療機能の充実に取り組むこととしております。

医療計画で掲げる本県の医療提供体制の確保にあたっては、医療の現場で御活躍されている

皆様との連携が、必要不可欠なものと考えております。

本日の表彰を受けられました皆様、並びに沖繩県医師会の皆様におかれましては、引き続き本県医療行政の推進に御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本日栄えある表彰を受けられました皆様、並びに本日お集りの皆様の、ますますの御健勝と御活躍、並びに沖繩県医師会の御発展を祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

引き続き、受賞者を代表し、北山病院理学療法士の金城一二さんから概ね以下のとおり謝辞が述べられた。

本日は私たちの為にこのような盛大な式典を開催していただき誠にありがとうございます。永年勤続者を代表いたしまして厚く御礼申し上げます。

安里哲好県医師会会長を始め皆様から温かい御言葉をいただき、深く感謝申し上げます。

私事ではありますが、20年という歳月を振り返ってみますと人々の価値観の多様化や情報技術の進化によって社会生活や医療・介護業界も著しく変化し、その対応に追われてきた思いがあります。

しかし、そのような状況におきまして、理事長をはじめとする職場の上司や同僚、さらには家族の支えのおかげで、今日まで医療に従事できたことを心より感謝しております。今後も自己研鑽を積み重ね、微力ながらお手伝いしていきたいと考えております。

最後に、沖繩県医師会の益々のご発展を心よりお祈り申し上げるとともに、ご来賓の皆様のご活躍を祈念申し上げ、受賞者代表の謝辞とさせていただきます。

表彰式終了後に引き続き行われた懇親会では、長嶺議長の乾杯の音頭で祝宴に入り、被表彰者の所属する施設長や同僚が多数参加し、受賞者の永年の労をねぎらい盛会のうちに終了した。

## 印象記

理事 城間 寛

令和元年 11 月 27 日に上記式典が開かれましたので、その時の様子などをご紹介したいと思います。まず、開会の挨拶を、安里県医師会長が述べた後、県保健医療部の砂川靖部長も来賓として参加し、長年医療職に従事してきた事に対するねぎらいの言葉を述べられました。地区ごとに、ひとりびとりの受賞者の名前が読み上げられ、代表が壇上に上がり会長から表彰状を受け取る形式で式典が進められました。毎年恒例のこの表彰式ですが、表彰される方や、参加している同僚、上司の方々も、本当に晴れやかな笑顔に包まれています。特に表彰される方々は、自信に満ち、歡びを満面に浮かべている様に見えます。それもその筈です。20 年間勤め上げた事に対して、上司からは信頼を、後輩からは尊敬を、同僚からは共感を注がれ、それに応えて積み重ねてきた 20 年の重みを感じさせる表情です。

滞りなく表彰式が済み、引き続いて懇親会に移ります。懇親会では、代議員会議長の長嶺信夫先生から挨拶の言葉をいただいた後は、各テーブルにたくさんの飲み物、美味しい食べ物が準備されていて、食事しながらの懇談の場となりました。それまでの厳かな雰囲気とは打って変わって、病院ごと、あるいは地区ごとに分かれ、親しい仲間や旧知の人たちとの賑やかな会話の場となり、笑い声の絶えない賑やかな懇親の場となりました。特徴的だったのは、壇上には永年勤続医療従事者表彰式の垂れ幕が掛かっているのですが、それをバックに写真撮影を行うグループが絶え間なく、職場仲間、地区医師会毎に、また友人同士で集まり懇親会が終わる時まで記念写真撮影が続いているのが印象的でした。



# 国民医療を守るための総決起大会



副会長 宮里 善次

## 国民医療を守るための総決起大会

### 一次 第一

主 催：国民医療推進協議会  
 協 力：東京都医師会  
 日 時：令和元年12月6日（金）  
 午後2時00分～3時00分  
 場 所：憲政記念館講堂  
 （司会：小玉弘之 日本医師会常任理事）

- |            |  |
|------------|--|
| 1. 開会宣言    |  |
| 2. 挨拶      | 国民医療推進協議会会長 横倉 義武<br>東京都医師会会長 尾崎 治夫                  |
| 3. 来賓挨拶    |  |
| 4. 趣旨説明    | 日本医師会副会長 今村 聡  |
| 5. 決意表明    | 日本歯科医師会会長 堀 憲一郎<br>日本薬剤師会会長 山本 信夫<br>日本看護協会副会長 秋山 智弥 |
| 6. 決 議     | 日本医療法人協会会長 加納 繁照                                     |
| 7. 頑張ろうコール | 日本医師会副会長 中川 俊男                                       |

医療関係団体 41 団体から約 1,000 人、超党派の国会議員 100 以上が参加して「国民医療を守る総決起大会」が開催された。

2020 年診療報酬改定でのプラス改定の実現や社会保障制度を確立するための適切な財源確保に向けて“決議”が採択され、最後に頑張ろうコールで団結を示した。

ところで、日本医師会は皆保険制度の堅持と診療報酬の財源確保を求めて、これまで数々の提言を行ってきた。人生 100 年時代に向けて、①健康寿命の延伸による社会経済活動の参加（5,500 億円の増税効果）や、税制分野では②自助（自己負担）では所得や金融資産の多寡に応じた負担を、③共助（保険料）の分野では傷病手当を雇用保険から支払う一本化と、被用者保険の保険料率を組合健保では協会けんぽの 10% に合わせる事（1 兆円の増税効果）や、国家公務員のそれを地方公務員の 9.54% にあわせる事（1,100 億円の増税効果）など、さらに④公助（税金）では消費税一本足打法からの脱却をめざして、企業の内部留保金（賃上げや設備投資が行われない時）への課税、たばこ増税、死亡時課税のあり方など、様々な提言をしてきた。

しかしながら今回の来賓挨拶で、野党のおひとり「決議文を読みましたが随分と曖昧ですね。要するに診療報酬を上げて欲しいのでしょう」と、あたかも診療報酬プラス改定だけに限局した運動であるかの発言は残念であった。

その言葉を聞いた時に、日本医師会のロビー活動が自民党以外には浸透していないのかなと云う印象を受けた。と同時に、マスメディアを通じた情報しか与えられない国民の理解度となると更に心もとないものかも知れないと云う思いが脳裏をよぎった。

皆保険制度の維持や医療費の適切な財源確保について沖縄県民の理解を得るためには、県医師会のホームページで広報することは勿論であるが、患者さんに一番近いかかりつけ医である会員の先生方の各施設において、主旨説明の一枚を張り出して頂きたいと思った決起大会であった。

※会の内容については上記の通りとなっており、報告書の詳細につきましてはホームページをご参照下さい。  
 URL: [http://www.okinawa.med.or.jp/html/hokoku/nihonishikai\\_mokuji.html](http://www.okinawa.med.or.jp/html/hokoku/nihonishikai_mokuji.html)

## 決 議

人生 100 年時代を迎えるなか、幸福な国民生活を将来にわたりおくるためには、必要な医療・介護を安心して受けられるようにしなければならない。

よって、持続可能な社会保障制度の確立に向けて、適切な財源を確保するよう、本大会参加者全員の総意として、強く要望する。

以上、決議する。

令和元年12月6日

国民医療を守るための総決起大会

## 沖縄県医療推進協議会

～持続可能な社会保障制度の確立、適切な財源確保に向けて決議～



常任理事 稲田 隆司



去る、12月11日（水）ダブルツリー by ヒルトン那覇首里城において、沖縄県医療推進協議会が開催されたので、その概要を報告する。

当日は急な呼びかけにもかかわらず加盟 36 団体中 29 団体が参加し、国民医療を守る為の活動計画について協議を行った。

先ず、今回の呼びかけ団体である県医師会を代表して、安里会長より下記のとおり挨拶があった。

### 安里哲好沖縄県医師会長挨拶



本日は、多忙な中、急な呼びかけにもかかわらず、沖縄県医療推進協議会に出席賜り厚く感謝申しあげる。

当協議会は、沖縄県における医療・介護・保健および福祉行政の充実強化を目指し、極的に諸活動を推進することを目的に掲げ、当該趣旨

に賛同する団体が参加し、平成 16 年 11 月に設立された。

当協議会では、これまで「混合診療の解禁阻止」、「高齢者のさらなる負担への反対」、「国民不在の医療制度改革反対」、「助産師・看護師養成、県立浦添看護学校の存続」、「地域医療を守る予算の確保」、「社会保障費の年 2,200 億円削減撤廃」、「TPP 参加阻止」等を求め、署名活動や県民集会等各種活動を展開して参りました。お陰様で、「混合診療の全面解禁阻止」「助産師・看護師養成」「社会保障費の削減撤廃」については一定の成果を得ることができた。

これも偏に当医療推進協議会各加盟団体の協力の賜と感謝申しあげる。

さて、ご高承の通り、去った 9 月に安倍新内閣が発足し、安倍総理を議長とする全世代型社会保障検討会議が設置された。

同会議では、人生 100 年時代の到来を見据え、年金、医療、介護、労働など、社会保障全般に渡る持続可能な改革をさらに検討し、年末まで

に中間報告、来年夏までに最終報告を取りまとめるとしている。その中で医療に関しては、年金・介護の後に医療費抑制策と患者・国民負担増について議論が行われる見込みとなっている。

国民医療を担う医師会としては、人生100年時代の医療について、従来の治療主体の医療から、人々の健康づくりに貢献し、人生に寄り添う医療へと転換していくことが重要であるとの認識の下、かかりつけ医を中心に、防ぎ、治し、支える医療を展開してまいりたいと考えている。

国民皆保険制度を敷くわが国において、医療関係者の人件費も含めた医業経営の実質的な原資となるものは、診療報酬である。ここに十分な手当がなされなければ、国民に必要な医療・介護を提供していくための体制を構築し、維持していくことは困難である。地域の医療・介護を担う医療機関等が閉院した場合、一番困るのはその地域に住む住民の方々である。

かかる状況に鑑み、国民が幸福な生活を送れるような社会保障制度を求める声を政府に届けることを目的とした県民運動を沖縄県において展開したいと考え、本日当医療推進協議会を開催させて頂いた。

つきましては、時節柄何かと慌ただしい折、誠に恐縮に存じますが、所期の目的を達成すべく、支援協力賜りますようお願い申しあげ、挨拶とさせていただきます。

続いて、今回の協議会開催に係る趣旨説明として、宮里善次副会長より、「国民医療を守るための国民運動、医療・介護の適切な財源確保に向けて」について資料に基づき説明が行われた。

以上の説明の後、安里会長より本来であれば当協議会において諮り、了解が得られれば県民運動へ展開すべきところではありますが、中央から緊急に運動の開要請がある為、いち早く行動を起こすべく、当協議会において決議を採択したいとの提案があり、異議なく承認された。

これを受けて決議案が配布され稲田常任理事より朗読が行われた後、協議が行われ全会一致で決議案が承認された。なお、同決議文は内閣総理大臣、厚生労働大臣、財務大臣、衆参両議長、衆参厚生労働委員会委員、県選出国會議員、沖縄県知事、県議会議長、県議會議員、マスクミ等関係各位へ送付する事になった。

NO	役職	氏名	所属団体
1	会長	安里 哲好	沖縄県医師会
2	副会長	真境名 勉	沖縄県歯科医師会
3	副会長	電谷 浩昌	沖縄県薬剤師会
4	副会長	仲座 明美	沖縄県看護協会
5	理事	湧川 昌秀	沖縄県社会福祉協議会
6	理事	上原 功	沖縄県調理師会
7	理事	本永 静江	沖縄県婦人連合会
8	理事	新垣 昇	沖縄県老人クラブ連合会
9	理事	大城 勉	沖縄県農業協同組合中央会
10	理事	村濱 千賀子	沖縄県栄養士会
11	理事	手登根 桂	沖縄県臨床検査技師会
12	理事	比嘉 香恵子	沖縄県歯科衛生士会
13	理事	平良 光政	沖縄県柔道整復師会
14	理事	久場 良男	沖縄県鍼灸師会
15	理事	樋口 美智子	沖縄県医療ソーシャルワーカー協会
16	理事	比嘉 靖	沖縄県作業療法士会
17	理事	久志 紫乃	沖縄県言語聴覚士会
18	理事	金城 ゆかり	沖縄県はり・きゅう・マッサージ師会
19	理事	新垣 西	全日本病院協会沖縄県支部
20	理事	小渡 敬	沖縄県精神科病院協会
21	理事	玉奇 貞一郎	沖縄県ウォーキング協会
22	理事	福元 勇可	沖縄県高等学校障害児学校教職員組合
23	理事	露名腰 義裕	沖縄小児在宅医療基金「ていんさくの会」
24	理事	嘉数 清美	日本てんかん協会沖縄県支部
25	理事	穴井 輝明	沖縄県医療福祉労働組合連合会
26	理事	平良 直樹	沖縄県老人保健施設協議会
27	理事	名嘉 栄勝	沖縄県慢性期医療協会
28	理事	長野 篤	沖縄県放射線技師会
29	理事	西銘 隆	沖縄県精神保健福祉士協会
30	理事	池城 正浩	沖縄県理学療法士協会
31	理事	屋我 諭	日本健康運動指導士会沖縄県支部
32	理事	中村 克徳	沖縄県病院薬剤師会
33	理事	石川 久	日本医業経営コンサルタント協会 沖縄県支部
34	理事	大城 安	沖縄県臨床工学技士会
35	理事	國古 實	沖縄県腎臓病協議会
36	理事	鈴木 伸章	認知症の人と家族の会 沖縄県支部

### 決 議

人生100年時代を迎えるなか、幸福な国民生活を将来にわたりおくるためには、必要な医療・介護を安心して受けられるようにしなければならない。

よって、持続可能な社会保障制度の確立に向けて、適切な財源を確保するよう、本協議会の総意として、強く要望する。

以上、決議する。

令和元年12月11日

沖縄県医療推進協議会

## 九州医師会連合会第 381 回常任委員会



会長 安里 哲好

去る 11 月 15 日（金）、ホテルニューオータニ佐賀においてみだし常任委員会が開催されたので概要を報告する。

会の冒頭、九医連の池田秀夫会長（佐賀県医師会長）より、本日から 3 日間、今年度のメインイベントとなる九州医師会連合会総会・医学会等関連諸行事が開催されるので、皆様のご協力をお願いしたいとの挨拶が述べられた。

### 報 告

#### 1) 九州医師会連合会事業現況について（佐賀）

令和元年 7 月から 10 月 31 日迄に開催された九州医師会連合会の主な事業内容について、資料に基づき報告があった。

#### 2) 九州医師会連合会歳入歳出現計について（佐賀）

令和元年 10 月 31 日現在の九州医師会連合会会計の歳入並びに歳出の現計について、資料に基づき報告があった。

#### 3) 第 119 回九州医師会連合会総会及び医学会関連行事について（佐賀）

本日から 3 日間に亘って開催される第 119 回九州医師会総会・医学会関連行事について報告があった。

#### 4) 第 72 回日本医師会設立記念医学大会における各種表彰者に対する慶祝について（佐賀）

下記受章者に対し、九州医師会連合会長名で祝電をお送りし、祝意を表した旨報告があった。

#### ○日本医師会最高優功賞

・通算 6 年日本医師会役員及び都道府県医師会長

松本 純一 先生（三重）

・在任 6 年都道府県医師会長

河野 雅行 先生（宮崎）

・医学、医術の研究又は地域における医療活動により、医学、医療の発展又は社会福祉の向上に貢献し、特に功績顕著なる功労者（都道府県医師会長推薦）

中村 哲 先生（福岡）

医療の国際協力に貢献著しい功労者

園田 勝男 先生（鹿児島）

小児保健及び小児救急医療体制の確立に貢献した功労者

池原 幸雄 先生（沖縄）

地域医療及び公衆衛生活動に貢献した功労者

#### ○日本医師会優功賞

・在任 10 年日本医師会代議員

植田 清一郎 先生（福岡）

上野 道雄 先生（福岡）

長柄 均 先生（福岡）

蓮澤 浩明 先生（福岡）

安里 哲好 先生（沖縄）

・在任 10 年日本医師会委員会委員

寺澤 正壽 先生（福岡）

#### ○日本医師会医学研究奨励賞

・井上 泰輝 先生（熊本大学）

・伊藤 心二 先生（九州大学）

5) 秋の叙勲等受章者に対する慶祝について (佐賀)

下記受賞者に対し、九州医師会連合会長名で祝電をお送りし、祝意を表した旨報告があった。

- ・旭日小綬章 今村定臣先生  
(元日本医師会常任理事)
- ・瑞宝小綬章 植田清一郎先生  
(九州医師会連合会委員)

協 議

1) 九州医師会連合会令和元年度第2回各種協議会の開催種目について (佐賀)

標記各種協議会の開催種目について、下記のとおり開催することに決定した。

なお、提案事項については、各協議会1県1題とすることが確認された。

期 日：令和2年2月1日 (土)  
場 所：ホテルニューオータニ佐賀  
日 程：16：00～18：00

- ①地域医療対策協議会 (外国人医療問題を含む)
- ②医療保険対策協議会
- ③介護保険対策協議会 (地域包括ケアシステムを含む)

18：10～18：50  
各種協議会等報告会

2) 九州医師会連合会第16回事務局長連絡協議会 (令和2年2月14日 (金)・佐賀市) について (佐賀)

標記事務局長連絡協議会について、下記の通り開催することに決定した。

日 時：令和2年2月14日 (金) 16：00  
場 所：佐賀県医師会

3) 令和元年台風19号及び21号による被害に係る見舞金について (佐賀)

台風19号、21号の襲来により、関東地方を中心に広範な範囲で甚大な被害を及ぼしたことから、この度、日本医師会長より各都道府県医師会長宛、支援金の依頼が行われているのを受け、九医連としての対応について協議した結果、各県においてそれぞれ対応することが確認された。

その他

1) 首里城火災について (沖縄)

安里会長より、去る10月31日未明に発生した首里城火災について、状況報告を行うと共に、各県から寄せられたお見舞いや激励に対し謝意を表した。

お 知 ら せ

会員にかかる弔事に関する医師会への連絡について (お願い)

本会では、会員および会員の親族 (配偶者、直系尊属・卑属一親等) が亡くなられた場合は、沖縄県医師会表彰弔慰規則に基づいて、弔電、香典および供花を供すると共に、日刊紙に弔慰広告を掲載し弔意を表することになっております。

会員に関する訃報の連絡を受けた場合は、地区医師会、出身大学同窓会等と連絡を取って規則に沿って対応しておりますが、日曜・祝祭日等に当該会員やご家族からの連絡がなく、本会並びに地区医師会等からの弔意を表せないことがあります。

本会の緊急連絡体制については、平日は本会事務局が対応し、日曜・祝祭日については、緊急電話で受付して担当職員へ取り次ぐことになっておりますので、ご連絡下さいませようお願い申し上げます。

- 平日連絡先：沖縄県医師会事務局  
TEL 098-888-0087
- 日曜・祝祭日連絡先：090-6861-1855
- 担当者 経理課：平木怜子 池田公江

# 九州医師会連合会第 118 回臨時委員会



理事 白井 和美



## 九州医師会連合会第 118 回臨時委員総会

日 時 令和元年 11 月 15 日 (金)  
17:00 ~ 17:50  
場 所 ホテルニューオータニ佐賀 M2F・鳳凰の間

### 次 第

1. 開 会
2. 挨拶 九州医師会連合会長
3. 来賓祝辞 日本医師会長
4. 座長選出
5. 報 告
  - 1) 第 381 回常任委員会について (佐賀)
  - 2) 九州医師会連合会事業現況について (佐賀)
  - 3) 九州医師会連合会歳入歳出出現計について (佐賀)
  - 4) 第 119 回九州医師会医学会および関連行事について (佐賀)
- 5) その他
6. 議 事  
第 1 号議案 第 119 回九州医師会連合会総会の宣言・決議 (案) に関する件
7. 協 議
8. そ の 他
9. 閉 会

去る、11 月 15 日 (金)、ホテルニューオータニ佐賀において標記委員会が開催されたので概要を報告する。

横倉日本医師会長の中央情勢報告は、今夏の台風被害へのお見舞いに始まり、この度、政府は少子高齢化社会での社会保障体制の見直しを検討する「全世代型社会保障会議」を招集したが、委員に医療関係者が選定されなかったことを極めて遺憾に思うとされた。この点を強烈に意見具申したところ、我々の意見を聞く機会が設けられたので、特に財政当局が推進しようとしている受診時定額負担制の導入、後期高齢者で現役並み所得のある方々の 2 割負担導入、スイッチ OTC 薬の保険給付率変更などについて反対の意を述べてきたと話された。また、次年度の診療報酬改定に関しては、財務省はネットマイナス、本体マイナス、薬価マイナスと考えているので注意深く動向を見守るとされた。また最後には世界医師会会長に関連する任務がすべて無事 10 月で終了したことへの謝意も述べられた。先生は、会議当日早朝まで医療会代表として大嘗祭に出

席していたため徹夜であったと話しておられたが、大変力強いお言葉の数々をお聞きできた。

報告では、本年7月から10月までの九医連事業の現況、会計現計、翌日の九州医師会医学会と関連行事日程が、議事では、総会で提出され

る宣言・決議案が協議され、原案通り承認された。

※会の内容については上記の通りとなっており、報告書の詳細につきましてはホームページをご参照下さい。  
<http://www.okinawa.med.or.jp/html/hokoku/hokoku.html>

### 宣 言

新年号「令和」の時代における医療の最優先課題は、いかに明るい健康社会を作り上げていくかということである。人生100年時代を迎える中で重要となってくるのが、「予防・健康づくり」であり、「疾病の予防・教育」、「早期発見・早期治療」および「重症化予防」に対する取り組みによる「健康寿命の延伸」である。また同時に、患者の意思を尊重した医療およびケアを提供することにより、尊厳ある生き方も実現しなければならない。ACP（人生会議）の普及も不可欠である。

一方、我が国の現状は、経済成長の鈍化、財政の逼迫、著しい少子化などが、社会保障制度を支えるために必要な財源と人的資源の双方に深刻な影響を与えている。加えて、国民の安心・安全の礎である国民皆保険制度への影響も、大いに危惧されるところである。

そうした中、政府は、2040年を展望した医療提供体制を念頭に、地域医療構想の実現に向けた取組、医療従事者の働き方改革、医師偏在対策を「三位一体」で推進する方針を明らかにしている。しかし、それぞれ目的を異にする中での課題であり、一つ一つ丁寧に、地域の実情に合わせた議論を行うことが重要である。

その為には、地産医療構想を通じた医療機能の分化・連携の推進、医師の働き方改革を通じた医師の健康確保と地域医療提供体制の両立、医師の養成を通じた医療の質の向上と医師偏在の是正、医師確保対策を通じた医療資源の地域間格差の是正を図る必要がある。更には、地域包括ケアシステムを通じた切れ目のない医療・介護提供体制の構築など、これらの取り組みを高度に相関させながら、時代に則した医療を実現しなければならない。

なお、近年頻発する広域・大規模災害時の医療提供体制の構築は、情報共有の在り方と共に喫緊の課題であるにもかかわらず、未だ不十分と言わざるを得ない。九州医師会連合会として、関係機関との緊密な連携のもとに、早期の確立を目指すこととする。

我々九州医師会連合会は、医師としての矜持と高い倫理観の下に、国民の生命と健康を守るため、日本医師会と共に一致団結して取り組んでいくことを、ここに宣言する。

令和元年11月16日

第119回九州医師会連合会総会

### 決 議

我々九州医師会連合会は、政府に対し、次の事項を強く要求する。

- 一、国民の安心・安全の礎である国民皆保険制度の堅持
- 一、社会保障制度の充実・向上のための恒久的財源の確保
- 一、次回診療報酬改定における適正な評価
- 一、地域医療構想における地産の実情に応じた具体的施策の実現
- 一、地域特性を反映した地域包括ケアシステムの構築
- 一、医療の特異性に配慮した医療従事者の働き方改革
- 一、実効性のある医師の地域および診療科偏在対策
- 一、多職種（地域）で支えるACP（人生会議）の普及啓発
- 一、災害時の迅速かつ円滑な情報共有と医療提供体制の確保
- 一、看護師および准看護師の継続的な養成

以上、決議する。

令和元年11月16日

第119回九州医師会連合会総会

# 第 119 回九州医師会医学会及び関連行事

- I. 九州医師会連合会委員・九州各県医師会役員合同協議会
- II. 第 119 回九州医師会連合会総会・医学会



理事 本竹 秀光



## 九州医師会連合会委員・九州各県医師会役員合同協議会

日 時：令和元年 11 月 16 日（土）10：00～12：00  
場 所：ホテルニューオータニ佐賀 M2F・鶴東

### 【次 第】

1. 開 会
2. 挨拶  
九州医師会連合会長
3. 座長選出
4. 講 演  
「中央情勢報告」  
日本医師会長 横倉 義武先生
5. 意見交換
6. 閉 会

## 第 119 回九州医師会総会・医学会

会 期：令和元年 11 月 16 日（土）・17 日（日）  
会 場：ホテルニューオータニ佐賀、佐賀市内各会場  
日 程：16 日（土）総会・医学会  
ホテルニューオータニ佐賀  
17 日（日）分科会 佐賀市内各会場  
記念行事 佐賀市内各会場

## 総会・医学会

◇期 日：令和元年 11 月 16 日（土）13：00～16：10  
◇会 場：ホテルニューオータニ佐賀

### 総 会

- 1) 開会の辞
- 2) 国歌斉唱
- 3) 黙 禱
- 4) 九州医師会連合会長挨拶
- 5) 来賓祝辞
- 6) 祝電披露
- 7) 宣言決議
- 8) 次回開催担当県医師会長挨拶
- 9) 閉会の辞

### 医学会

- ◎特別講演Ⅰ（14：00～15：00）  
演 題 「心血管不全の病態と治療」  
講 師 佐賀大学医学部循環器内科 教授  
野出孝一 先生  
座 長 佐賀県医師会 会長 池田秀夫
- ◎特別講演Ⅱ（15：10～16：10）  
演 題 「佐賀藩と幕末のリーダー鍋島直正公」  
講 師 公益財団法人鍋島報効会  
徴古館主任学芸員 富田紘次 先生  
座 長 佐賀県医師会 副会長 松永啓介

令和元年11月16日、佐賀県医師会主催の第119回九州医師会医学会に参加した。午前10時から「中央情勢報告」のタイトルで横倉義武日本医師会会長の講演が行われた。講演の内容は①医師会の歩み②医師会の役割と医の倫理③世界医師会の活動④ Universal Health Coverage ⑤明るい健康長寿社会に向けて⑥超高齢社会、人口減少社会に向けた医療のあり方⑦全世代型社会保障に向けてであった。

日本の西洋医学は1857年長崎でポンペ（四民平等、患者中心の医療を教え、近代西洋医学教育の父）から西洋医学を学ぶことから始まった。教育はたちまち全国に広がり、また、たがいの医術の向上の目的で研究親睦団体が長野県の小諸医師協議会（明治5年；1872年）を筆頭に全国で同様な団体が相次ぎ設立された。これが医師会の始まりである。全国組織としての医師会は1916年、北里柴三郎会長による大日本医師会設立（会員数約3万）である。北里先生はペスト菌の発見、破傷風の治療法の開発で世界的に有名な感染症の大家であるが、国家の近代化には予防医学の確立は必須であるとの強い信念を持っておられたようだ。横倉会長は日本医師会の役割として、人生100年時代に向け、北里先生の志を受け継ぎ、治療医学のみならず、予防・健康づくりに力点を置き、健康長寿社会の実現に尽力していくと述べられたことはとても印象的であった。また、2024年から新千円札の肖像になるが、野口英世先生に続き2代連続で医師が肖像となったことは医療が社会に欠

かせないと言う裏付けであり、医師が社会に果たす責任の重さを感じるとも述べておられた。医療の根本は信頼で有り、医師自らが国民に対して医師と医療の質保障に責任を負う体制を構築することが必要であるが、そこに医師の学術団体・専門職能団体である「医師会」の存在意義・目的があるとの説明は胸にストーンと落ち、改めて医師会の存在意義を確信した。

午後からの2題の特別講演の中で公益社団法人鍋島報効会徴古館主任学芸員富田紘次先生の「佐賀藩と幕末のリーダー鍋島直正公」はとても印象に残った。鍋島直正は若くして10代佐賀藩主になったが、その政治思想は特筆すべきであった。その一つが為政者として仁の思想を強く持っていたことである。江戸時代死亡率の高い天然痘はつとにおそれられていた感染症であるが、直正は牛痘法を佐賀藩に導入し全国に広めた立役者である。医療というものは、藩主が藩内の領民を扶助する上で随一の行為。良医が少なければ、藩内にくまなく医療行為が行き届かないとして藩主5年目に医者養成のための医学寮を設立した。現在の佐賀好生館の前身である。

最後に、沖縄県は戦後の極度の医師不足から現在医師が多い地域に指定されるまでに発展してきたわけであるが、その礎を築いた先達たちの苦悩と努力が目には浮かぶようであった。

※会の内容については上記の通りとなっており、報告書の詳細につきましてはホームページをご参照下さい。  
<http://www.okinawa.med.or.jp/html/hokoku/hokoku.html>



# 2019 年度第 50 回 全国学校保健・学校医大会 in 埼玉

理事 白井 和美



2019 年度第 50 回全国学校保健・学校医大会 プログラム  
メインテーマ 「多様化する社会と子どもの成長 ～これからの学校医の役割～」

日 時：令和元年 11 月 23 日（土）午前 10 時～（第 5 分科会 午前 9 時 30 分～）  
会 場：ソニックシティ / パレスホテル大宮  
主 催：日本医師会  
担 当：埼玉県医師会  
参加者：日本医師会会員および学校保健に関係のある専門職の者

## 第 1 分科会

【座長】 埼玉県小児科医会 会長 森 泰二郎  
埼玉県医師会 理事 草薨 博昭

## 第 2 分科会

【座長】 埼玉県医師会 副会長 神田 誠  
埼玉県医師会学校医会 副会長 齋藤 洪太

## 第 3 分科会

【座長】 埼玉県医師会学校医会 常任理事 柴田 輝明  
埼玉県小児科医会 理事 高木 学

## 第 4 分科会

【座長】 埼玉県耳鼻咽喉科医会 会長 谷本 秀司  
埼玉県医師会学校医会 常任理事 酒井 文隆

## 第 5 分科会

【座長】 埼玉県眼科医会 会長 猪俣 俊晴  
埼玉県医師会 理事 正田政一郎

都道府県医師会連絡会議

開会式・表彰式

開 会  
挨 拶：埼玉県医師会会長 金井 忠男 / 日本医師会会長 横倉 義武  
祝 辞：文部科学大臣 萩生田 光一 / 埼玉県知事 大野 元裕 / さいたま市長 清水 勇人  
日本学校保健会会長 横倉 義武 / 埼玉県教育委員会教育長 小松 弥生  
表 彰：学校医 10 名 / 養護教諭 10 名 / 学校関係栄養士 10 名  
謝 辞：受賞者代表  
閉 会

基調講演・シンポジウム

【座長】 埼玉県医師会 常任理事 長又 則之 / 埼玉県医師会 理事 小林 敏宏  
基調講演：「日本医師会学校医宣言について」  
日本医師会学校保健委員会委員長 / 大分県医師会常任理事 / 日本学校保健会監事 藤本 保

シンポジウム：「現代の子どもが抱える諸問題について」

「小児在宅ケアの未来に向けて」 日本医師会 常任理事 松本 吉郎  
「過小評価されている小児の頭痛」 埼玉県医師会 常任理事 丸木 雄一  
「子どもの運動器症候群（ロコモ）と運動器検診の重要性」 埼玉県医師会学校医会 常任理事 柴田 輝明  
「発達障害の理解と対応」 国立研究開発法人国立成育医療研究センター 理事 平岩 幹男

特別講演

【座長】 埼玉県医師会 理事 正田政一郎  
「澁沢栄一を育てた環境と時代 ～栄一が携わった社会福祉事業と人づくり～」  
【講師】 竜門社深谷支部 幹事 / 深谷上杉・郷土史研究会員 鹿島 高光

次期担当医師会長挨拶

「多様化する社会と子どもの成長～これからの学校医の役割～」をテーマに標記大会がさいたま市で開催された。午前の分科会は、「からだ・こころ (1)」に出席した。2次検尿で定量尿蛋白クレアチニン比を追加し精度向上に取り組む岐阜県、学校検尿有所見者の長期追跡成績を提示された愛知県、群馬県は学校検診マニュアルの作成経緯について詳しく解説された。一方、大阪府からは、心臓検診と突然死・心肺蘇生に関する調査が発表された。2010年から2018年に学校管理下で起きた突然死は、1,363校中32校(2.3%)、詳細アンケートに回答のあった15校の16例(児童13例、教職員3例)の半数に基礎疾患(心筋症、QT延長、PVC)があり管理中であった。基礎疾患なしの症例は心室細動などの不整脈と後に判明したという。この中で1例だけがAEDを使用するも不幸の転機となったが、92%が後遺症無く生存中とのことであった。

午後からは、開会式、表彰式に続き、日本医師会学校保健委員会委員長 藤本保先生による基調講演「日本医師会 学校医宣言について」、

シンポジウム「現代の子どもが抱える諸問題について」、特別講演「渋沢栄一を育てた環境と時代～栄一が携わった社会福祉事業と人づくり～」があった。シンポジウムでは、埼玉県医師会の丸木先生から、過小評価されている小児の頭痛について、アンケート結果から、過去3か月間に小学生の70%、中学生の77%に頭痛があり、うち小学生の11.4%、中学生の13.5%が医療機関を受診。片頭痛も中学生の20%程度にあることが予想されるとの報告があり驚いた。小児在宅ケアの今後の取り組みについて、運動器検診の重要性、発達障害の理解と対応についても講話があった。

特別講演の演者は渋沢栄一記念財団の鹿島高光氏(90歳の矍鑠たる紳士)で、栄一氏の生涯を解説され、数々の心温まるエピソードを優しい語り口で紹介された。最後は、栄一氏が90歳の時に作成された格調高い漢詩の朗読で締めくくられた。

以上、大会の様子を簡単にご報告します。尚、事務局に抄録集がありますので、ご希望の方はそちらをご参照ください。

## お知らせ

### 文書映像データ管理システムについて (ご案内)

さて、沖縄県医師会では、会員へ各種通知、事業案内、講演会映像等の配信を行う「文書映像データ管理システム」事業を平成23年4月から開始しております。

また、各種通知等につきましては、希望する会員へ郵送等に併せてメール配信を行っております。

なお、「文書映像データ管理システム」(下記URL参照)をご利用いただくにはアカウントとパスワードが必要となっており、また、メール配信を希望する場合は、当システムからお申し込みいただくことしております。

アカウント・パスワードのご照会並びにご不明な点につきましては、沖縄県医師会事務局(TEL098-888-0087 担当:新垣・國吉)までお電話いただくか、氏名、医療機関名を明記の上 omajimusyo@okinawa.med.or.jp までお問い合わせ下さいませようようお願い申し上げます。

#### ○「文書映像データ管理システム」

URL : <http://www.documents.okinawa.med.or.jp/>

※ 当システムは、沖縄県医師会ホームページからもアクセスいただけます。

## 第129回沖縄県医師会医学会総会の演題募集について（ご案内）

本会では、標記医学会総会を下記のとおり開催することになりました。  
つきましては、本会ホームページ上にて一般演題を募集いたしますので、《ユーザー名・パスワード》をご参照の上、お申し込みください。

記

- ※『一般演題募集期間』：令和2年1月23日（木） 9：00～  
2月20日（木） 17：30迄  
『一般演題修正期間』：令和2年2月27日（木） 17：30迄

沖縄県医師会ホームページ (<http://www.okinawa.med.or.jp>)

『沖縄県医師会医学会総会一般演題募集』よりログイン

ユーザー名：**oki igaku**

パスワード：**129 igaku**

会 期：令和2年6月14日（日）

場 所：沖縄県医師会館

内 容：

○特別講演

「骨格筋疾患(筋障害)としてのサルコペニアの定義と診断に関する最新の知見(仮)」

講師：熊本リハビリテーション病院 リハビリテーション科 副部長 吉村 芳弘先生

○ミニレクチャー

①「がん疼痛のペインクリニック的専門治療」

講師：中部徳洲会病院 疼痛治療科 統括部長 服部 政治 先生

②「沖縄県での性感染症の現状、治療の実際について(仮)」

講師：中頭病院 感染症内科・総合内科 部長 新里 敬 先生

○「ドクターG」特別レクチャー

講師：群星沖縄臨床研修センター長 徳田 安春先生

○一般講演

### 【ご案内】

第129回県医学会より、英語での発表を行う【英語セッション】を新設します。当セッションでの発表を希望される方は、演題登録時の「演題分類（第1希望）」にて英語セッションを選択ください。（演題抄録は必ず、目的、方法、成績、結論を具体的に記入して下さい。抄録が不備なものは不採用になることがあります。また、演題の内容は、「症例報告」か「疫学調査」のどちらかに限ります。）

※演題の採否、演題分類等についてはプログラム編成委員会にご一任ください。

※当日は託児所を設置致します。ご利用を希望される方は本会 HP をご確認ください。

（完全予約制）

※第125回県医学会より、一般演題募集のお知らせは、県医師会報と本会ホームページのみでのお知らせとなっておりますのでご了承のほどお願い申し上げます。

問合先：沖縄県医師会業務1課（TEL：098-888-0087）